全国がん登録届出に関する演習問題

令和５（2023）年度長崎県全国がん登録研修会

演習問題の解答にはZoomの投票機能を使用します。ブラウザから参加されている方は、クイズ投票機能が使用できない可能性があります。解答及び解説はクイズ投票終了後にスライドに表示されます。ご了承下さい。なお、今回の演習問題のスライドは研修会終了後、県ホームページに掲載予定です。

2023年7月13日　長崎県がん登録室

演習①届出対象か否か

全国がん登録において、届出対象か否かを判断する問題です。

「１.届出対象」「2.届出対象外」のいずれかの番号を選択してください。

療養目的の訪問看護サービスをがん患者に対して
行っている場合
（がんに対する診断・治療は実施していない）

演習①届出対象について　＝解答＝

療養目的の訪問看護サービスをがん患者に対して行っている場合
（がんに対する診断・治療は実施していない）

1．届出対象　　**②．届出対象外**

がんに対しては
診断・治療を行っ
ていないので、
「届出対象外」

演習②届出対象か否か

全国がん登録において、届出対象か否かを判断する問題です。

「１.届出対象」「2.届出対象外」のいずれかの番号を選択してください。

他院で2年前から前立腺癌の治療中で、検査中に心臓疾患がみつかり
当院へ紹介入院となった。
他院（診断された医療機関）では前立腺癌に対して、
半年に1回ホルモン注射施行と、ビカルタミドを毎日服薬していた。
当院では、入院期間中にビカルタミドの処方のみ行い、PSAの検査等は
行っていない。

演習②届出対象について　＝解答＝

他院で2年前から前立腺癌の治療中で、検査中に心臓疾患がみつかり
当院へ紹介入院となった。
他院（診断された医療機関）では前立腺癌に対して、
半年に1回ホルモン注射施行と、ビカルタミドを毎日服薬していた。
当院では、入院期間中にビカルタミドの処方のみ行い、PSAの検査等は
行っていない。

1．届出対象　　**2．届出対象外**

当院の入院期間中に前立腺癌に対してビカルタミドの処方を行っているので届出対象

演習③診断日

全国がん登録において、以下の内容から適切な診断日をA～Dの中より選択してください。

2021年8月3日(A)　他施設のCT検査にて直腸癌と診断。

2021年9月11日(B)　精査手術目的に自施設来院。

2021年9月20日(C)　自施設にて生検、S状結腸腺癌と診断。

2021年9月28日(D)　手術施行。
術後病理検査にてS状結腸低分化腺癌と診断。

診断日	0. 西暦		年		月		日	

演習③診断日　＝解答＝

全国がん登録において、以下の設問に対して適切な診断日をA～Cの中から選択してください。

2021年8月3日(A)　他施設のCT検査にて直腸癌と診断。
2021年9月11日(B)　精査手術目的に自施設来院。
2021年9月20日(C)　自施設にて生検、S状結腸腺癌と診断。
2021年9月28日(D)　手術施行。
術後病理検査にて
S状結腸低分化腺癌と診断。

正解：C　９月２０日

前医：CT検査（５臨床検査）

自施設：生検（1組織診）　最も確かな検査

最も確かな検査が自施設受診後に実施
⇒「自施設診断」
自施設診断の場合、
診断日＝自施設検査日

診断日	☑ 0. 西暦	2021	年	9	月	20	日

演習④局在

全国がん登録において、以下の対応で是非を問う問題です。

「１.〇正しい」「２.×間違い」のいずれかの番号を選択してください。

前医からの医療情報提供書に「転移性肝がん」と記載があったので、届出票の「局在」の項目は「肝/C220」を選択した。

演習④局在　＝解答＝

全国がん登録において、以下の対応で是非を問う問題です。

「１.〇正しい」「２.×間違い」のいずれかの番号を選択してください。

前医からの医療情報提供書に「転移性肝がん」と記載があったので、届出票の「局在」の項目は「肝/C220」を選択した。

正解：2×間違い

全国がん登録では、当該がんの原発部位を届出し、転移部位は届出しません。
原発部位が不明な場合は「局在」＝「原発部位不明/C809」を選択してください。
「転移性肝がん」の情報は備考欄等へ記載ください。

演習⑤初回治療

全国がん登録において、以下の対応で是非を問う問題です。
「１.〇正しい」「２.×間違い」のいずれかの番号を選択してください。

肝がんで黄疸をとるために鏡視下手術にて胆道にステント留置の手術を行い、その後容体が安定したため、総合病院へ治療目的に紹介した。

当院の届出票作成にあたり、初回治療観血的治療「鏡視下：１自施設で施行」を選択した。

演習⑤初回治療　＝解答＝

肝がんで黄疸をとるために鏡視下手術にて胆道にステント留置の手術を行い、その後容体が安定したため、総合病院へ治療目的に紹介した。

当院の届出票作成にあたり、初回治療観血的治療「鏡視下：１自施設で施行」を選択した。

正解：2×間違い

初回治療に含まれる治療は当該腫瘍の縮小・消失を目的とした治療を指します。対処療法や症状緩和的処置を行った場合は、届出対象となりますが、初回治療には含まれません。

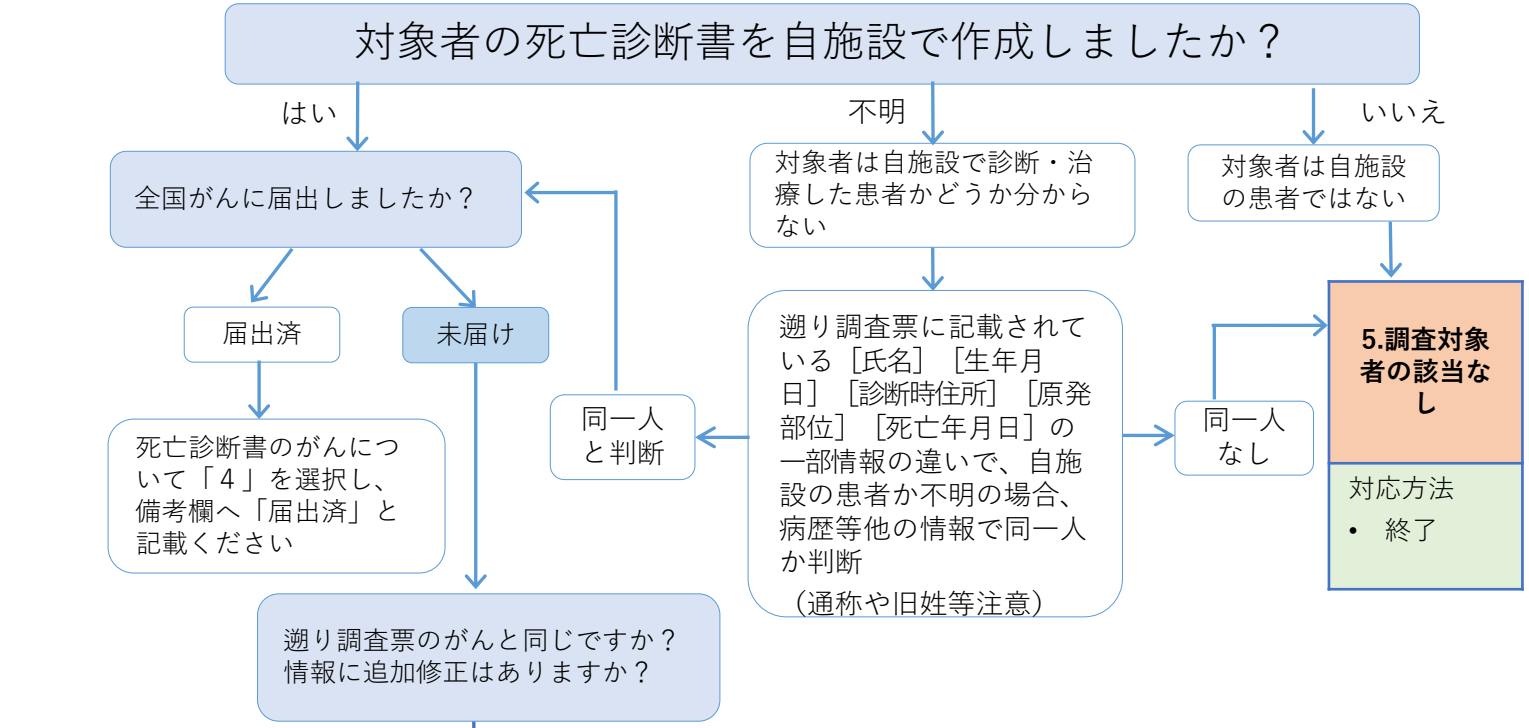
遡り調査とは？

がん登録室において、「がん」の届出情報がなく、死亡者情報票で初めて「がん」が確認された方★について、死亡診断書を作成した医療機関に届出を依頼する調査のことです。
※９月～１０月に実施されます

（がん登録等の推進に関する法律
第16条による協力要請）

★Death Certificate Notification(DCN)

遡り調査は任意の「調査」ではなく、死亡者情報票を基に届出漏れの可能性の指摘と位置づけられ、その調査に基づいて作成される「遡り調査票」は届出票と同義です。
病院等は、診療情報等の検索を行い、届出対象となる症例を確認した場合には、法６条に基づき届出義務があります。



1.通常回答	2.死亡診断書に記載のがんは調査の内容と異なる	3.死亡検案	6.調査対象腫瘍の詳細診療情報なし	4.死亡診断書には調査対象のがんの記載なし
対応方法 • 調査対象の腫瘍に関する情報を調査票に記入 • がんの情報に詳細部位や組織型の微細な違いがある場合は修正・追加	対応方法 • 調査票を修正 • 空白の項目に対して自施設でわかる範囲で記入 • 死亡診断書に記載された腫瘍に関することを遡り調査票へ記入（修正、追加）	対応方法 • 「3.死亡検案」を選択して終了	対応方法 • 主たる診断・治療病院名を記載	対応方法 • 備考欄に貴院が死亡票に記載した診断名を記入

遡り調査「死亡診断書のがんについて」（DCN区分）

死亡診断書のがんについて（DCN★区分）		
区分		意味
1	通常回答	自施設の死亡診断書に記載の「がん」と調査票に記載の「がん」とが同じ、未届けであった もしくは、がんの情報に詳細部位や組織型の微細な違いがある
2	死亡診断書に記載のがんは調査対象とは異なる	自施設で作成した死亡診断書の記載のがんと、調査票のがんとが異なる
3	死亡検案	死亡検案のため、これ以上がん患者及びがんに関する情報がない
4	死亡診断書には調査対象のがんの記載なし	自施設の死亡診断書には、「がん」の記載なし（死亡者情報票作成時の間違い） 疑い症例を脱しなかったもの
5	調査対象者の該当なし	自施設の患者ではない
6	調査対象腫瘍の詳細診療情報なし	自施設で作成した死亡診断書に記載の腫瘍と調査票の腫瘍が同じだが、主たる診断・治療は他施設のためこれ以上詳しい情報がない

★Death Certificate Notification(DCN)

遡り調査票が届きましたら、自施設の診療記録を調査し、1～6の区分の該当する番号を選択します。

※「死亡診断書のがんについて（DCN区分）」１または２を選択した場合、詳細な情報を回答します。
詳しい回答方法は10月頃に遡り調査対象施設に郵送する遡り調査手順でご案内します。

今回出題する問題は、「死亡診断書のがんについて」（DCN区分）に関する問題です。
略称してDCN区分と表記します。

演習遡り①

全国がん登録遡り調査回答において、DCN区分を次の１～６より選択してください。

１通常回答　　２死亡診断書に記載のがんは調査対象とは異なる

３死亡検案　　４死亡診断書には調査対象腫瘍のがんの記載なし

５調査対象者の該当なし　　６調査対象腫瘍の詳細診療情報なし

遡り調査票の死亡診断書記載の病名は「肺癌」と記載があるが、自施設で確認したところ、対象の届出は「死亡診断書記載の病名：肺炎」だった。

演習遡り①　＝解答＝

遡り調査票の死亡診断書記載の病名は「肺癌」と記載があるが、自施設で確認したところ、対象の届出は「死亡診断書記載の病名：肺炎」だった。

正解：DCN区分：4死亡診断書には調査対象のがんの記載なし

自施設では「肺炎」＝がんではない　という診断ですので、４死亡診断書には調査対象のがんの記載なしを選択してください。

※備考欄に理由「死亡診断書記載の病名：肺炎」と記載してださい。

演習遡り②

全国がん登録遡り調査回答において、DCN区分を次の１～６より選択してください。

１通常回答　　２死亡診断書に記載のがんは調査対象とは異なる

３死亡検案　　４死亡診断書には調査対象腫瘍のがんの記載なし

５調査対象者の該当なし　　６調査対象腫瘍の詳細診療情報なし

遡り調査票の「死亡票記載の診断名はS状結腸癌」だが、診療録を確認したところ自施設では直腸がん疑いで他施設へ紹介、OPEした結果S状結腸癌だった。

その後当院に転院され、１週間ほど入院、死亡退院された。死亡診断書はS状結腸癌と記載してあった。

演習遡り②　＝解答＝

遡り調査票の「死亡票記載の診断名はS状結腸癌」だが、診療録を確認したところ自施設では直腸がん疑いで他施設へ紹介、OPEした結果S状結腸癌だった。

その後当院に転院され、１週間ほど入院、死亡退院された。死亡診断書はS状結腸癌と記載してあった。

正解：DCN区分：1通常回答

直腸がん疑いで紹介し、他施設のOPEでS状結腸は確定した情報が届いているとの事なので、同じと考えて良いと判断します。

「遡り調査死亡票記載の診断名：S状結腸癌」と同じと確認したという結果のDCN区分：１通常回答をコードして下さい。

演習遡り③

全国がん登録遡り調査回答において、DCN区分を次の１～６より選択してください。

１通常回答　　２死亡診断書に記載のがんは調査対象とは異なる

３死亡検案　　４死亡診断書には調査対象腫瘍のがんの記載なし

５調査対象者の該当なし　　６調査対象腫瘍の詳細診療情報なし

複数の病院を転院し、治療診断病院も不明。
詳しい情報がない場合。

演習遡り③　＝解答＝

複数の病院を転院し、治療診断病院も不明。
詳しい情報がない場合。

正解：DCN区分：6調査対象腫瘍の詳細診療情報なし

DCN区分６で回答、備考欄へ「診断・治療施設不明。直近の紹介元施設名」を記載ください。

演習遡り④

全国がん登録遡り調査回答において、DCN区分を次の１～６より選択してください。

１通常回答　　２死亡診断書に記載のがんは調査対象とは異なる

３死亡検案　　４死亡診断書には調査対象腫瘍のがんの記載なし

５調査対象者の該当なし　　６調査対象腫瘍の詳細診療情報なし

遡り調査対象者ががんと確定されずそのまま死亡され、
「疑い」のままだった場合。

演習遡り④　＝解答＝

遡り調査対象者ががんと確定されずそのまま死亡され、
「疑い」のままだった場合。

正解：DCN区分：4死亡診断書には調査対象のがんの記載なし

「DCN区分：４」で回答し、備考欄に理由を記載してください。

おわり

問題は以上です。お疲れさまでした。